

「神のみそばに」

～そうだ父の元に返ろう～

ヨハネ17:5~26

汗をかくことができず体温調節ができず熱中症になる人が増えています。体の機能の回復を根本的に解決することよりも、水分塩分を取る表面的に解決することにばかり注目がちです。このように、私たちは問題の表面だけを解決しようとしますが、聖書は問題の根本的な解決をします。根本を癒されるのが神の奇跡です。神様は、私たちの問題のあった過去を洗い流し、人生を180度変えてくださいました。しかし、自分の価値観はなかなか変わらないので、悪い価値観を代々継承してしまうことで三代四代にまで続く家系の呪いという形になってしまいます。あなたの価値観で人生を歩み実を結ぶところに悪い者が関わってきます。申命記では何度も、あなたの価値観を改めなさいと言っています。神様は「わたしの伝えたことを行いなさい」と言われ、神様の思いとあなたの思いが違うことが示されています。ヨハネ17章は、イエス様の祈りです。あなたのことを何度も「わたしがあなたの中にあり、あなたの中にわたしをおらせてください。そして神様の中にわたしがいるので、あなたを神様の中におらせてください。」と願っておられます。あなたは神様の中にいて神様の思いを共有しているのでしょうか。イエス様は神様に、あなたをこの世から取り去ってくださいるようではなく、悪い者から守ってくださいるようお願いしています。(ヨハネ17:15) だから、あなたは絶対に守られます。これが分かっているならば、どんな問題が起こってもどんな敵が来ても、右往左往せず満ち足りることが出来ます。右往左往してしまうのは、過去の自分の価値観や思いや経験があるからです。あなたの価値観は、そうだと思い込んでいるもので明日には変わるかもしれないようなものです。聖書では、あなたがたの価値観ではなく、神の価値観に立てと言っています。

■ 神のみそばに

放蕩息子は父の元で豊かに暮らしていたが、財産を受け取るのを待ちきれずに、本来の半分以下の財産をもらい父と神様から逃げて思い通りに湯水のように使いました。人が道を外すと、神様は最初は必ずことばで忠告します。そのことばを素直に聞かないのであれば、環境を覆すことによって学ぶチャンスを与えます。自己義と自分の方法を捨て、自分が時を司ろうとしないで、神の時に神様と一緒にすれましょうまくいきます。

■ 世のものと神のもの

世のものと神のものは違います。あなたの思いと神の思いは違います。神の思いを知る方法は聖書しかありません。また聖書のことばをあなたの過去の知識に当てはめて流用してはいけません。神様の思いは過去ではなくこれから先です。イエス様はこの世のものではなく、だから理解されずこの世の人々に化け物扱いされ磔刑されました。クリスチャンもこの世のものではなく、世の思いではなく神の思い

に従って行動するので、理解されず化け物扱いされます。だから、守られるようにとイエス様は祈っています。(ヨハネ17:16) また表面的にこの世でマイナスに見える出来事が、その人が造り変えられるための重要な神様のご計画であることがあります。しかし、私たちは測り知ることはできません。すべてを知ったかのように思い、神の思いを留めてはいけません。イエス様はあなたの間違った価値観を壊すために来られました。この世のものと神のものは違うことを理解しなければいけません。理解していれば、つまりくことも傷むこともありません。神様の思いは何であるかを、へり下り考えてみてください。

■ 神の目線はあなたとひとつ

ペテロは自分が現人神のようになり、イエス様をいさめました。イエス様は「下がれサタン。わたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」と、ペテロにだけではなく同様に思っている弟子たちにも言いました(マタイ16:21~26) あなたも自分がイエス様より強くなっていないでしょうか。放蕩息子の話の続編があり、また財産をもらい使い果たしては父の元に帰ることを繰り返しました。父は怒らずその度に赦し抱きしめ喜び、それが止むまで何度も向き合いました。同じように、私たちも何度も十字架のイエス様を引きずり下ろし、神様が向き合ってくださいます。だから忍耐を思い自分の十字架を負い、イエス様に着いて行きます。神様に5回くらい聞いて正しいか確認して理解してから踏み出しましょう。それくらい、あなたの過去の経験に基づいた判断は間違っているのです。神様は、あなたの中に植えつけられたことばに語りかけて教え、倒れないように助けてくれます。だから、神様の声に聞こうとしなければいけません。

■ あなたは守られる

あなたは絶対に守られます。しかし1つ条件があります。あきらめないことです。あなたの決断は神様も覆すことができないので、頑なにしないでください。滅びの子が滅びると書かれています。災害も多くなっており、マタイ24章にあるような終わりの時代に、神のことばを受取る準備をしなければいけません。「放蕩息子は立ち上がり、父のもとに行った。まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。」(ルカ15:20)

(要約者:高橋 奈津江)

(2018年7月22日)